

9	課題番号	研究課題名	研究代表者	評価結果
	14103019	シガトキシン類の全合成・抗体・作用原理の研究	平間 正博(東北大学・大学院理学研究科・教授)	A+
<p>(意見等)</p> <p>本研究グループが世界に先駆けて成功したシガトキシンCTX3Cの全合成を基盤として、本研究課題では第二世代CTX3C合成法を開発した。巨大ポリエーテル分子の高効率合成を可能にした有機合成分野への貢献は極めて高いと評価できる。</p> <p>また、シガトキシン合成フラグメントを用いて抗体を作成し、ELISA法を確立すると共に、中和抗体を用いたシガテラ中毒の治療への道を開き、社会的波及効果が極めて高い。さらに、シガトキシンのナトリウムイオンチャンネルの開閉機構を明らかにしつつあり、神経科学分野へも高い貢献をしている。</p> <p>全体的に、本研究は学術的にも社会的貢献度からも高い成果を上げたものと評価できる。</p>				
10	課題番号	研究課題名	研究代表者	評価結果
	16101010	ニューエコノミーと労働・家族・国家－日米欧の比較ジェンダー分析－	大沢 真理(東京大学・社会科学研究所・教授)	A
<p>(意見等)</p> <p>労働市場と社会政策を専門とする日独英米の中核的な研究者と密な共同研究体制を組織し、「ジェンダー・レジーム」概念を共通の理論的枠組みに据え、「ニュー・エコノミー」の実相を明らかにする国際的な比較研究を行うものであり、内容的にみても、学術水準の高い多くの研究実績をあげている。</p> <p>研究の焦点を、「知識にもとづく経済」及びその労働領域の分析にあてていること、また、日本を参照基準として主要国の実証的比較研究を行っていることは、政策提言への反映が期待されるとともに、ユニークな研究として評価できる。</p> <p>なお、「知識労働者としてのケア労働者」に関する国際的、実証的比較研究の全容について、国内におけるアウトプットがなるべく早いうちになされるよう期待する。</p>				